



Title	目で見るWHO 第93号 表紙・目次等
Author(s)	岩本, 洋子
Citation	目で見るWHO. 2025, 93, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/102827">https://hdl.handle.net/11094/102827</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 目で見る WHO

2025 夏号

No.93



Visual Journal of Friends of WHO Japan



公益社団法人

日本WHO協会

# CONTENTS

P1	ごあいさつ	岩本 洋子
P2	巻頭特集	
	検疫所は何をしているところ?	垣本 和宏
P6	セミナー・イベント報告	
	1. 日本WHO協会主催「世界健康デー 2025」イベント	日本WHO協会
	2. ワン・ワールド・フェスティバル2025	中村 安秀
	3. 日本公衆衛生看護学会学術集会ランチョンセミナー	山口 友祐
	「こどもセルフケア看護理論」	谷口 瑞季
P16	NGO・団体紹介	
	NGOモヨ・チルドレン・センター	佐藤 南帆
P18	国際保健を学べる大学・大学院	
	1. 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 公衆衛生看護学分野	大西 眞由美
	2. 聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科	安岡 潤子
P22	留學生日記	
	米国で学ぶ小児医療政策－遅咲きの挑戦と日々の発見	今西 洋介
P24	WHO職員日記	
	感染症を終わらせるために：排除・根絶の歴史とこれから	泉 清彦
P26	WHOニュース 1月／2月／3月	林 正幸
		渡部 雄一
P32	関西グローバルヘルス(KGH)の集い	
	オンラインセミナー第9弾 第3回:My health, My right ～気候変動と健康～	日下部 愛依
P34	書籍紹介コーナー	小笠原 理恵
		磯邊 綾菜
P35	「Helping Health Workers Learn」で学び方を学ぶ	アジア保健研修所、 Bridges in Public Health
P36	日本WHO協会沿革	
P37	寄付者のご芳名／編集委員のページ	小笠原 理恵
P38	入会案内	

# ごあいさつ



日本WHO協会 理事  
弁護士

岩本 洋子 (いわもと ひろこ)

この文章を書いているのは2025年4月13日です。いよいよ今日から大阪夢洲(ゆめしま)で大阪・関西万博が始まりました。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。「いのち」がテーマになっていることから日本WHO協会も共感し、賛同し、参加しやすい万博だと考えます。

3月から4月にかけてのテレビや新聞のニュースでは、アメリカのトランプ大統領が関税を100%に上げたとか、それを90日間延期したとか、株価が乱高下したとか、アメリカ国債がどうなったとか、こうなったとか、経済やビジネスや「お金」に関する話題がニュースの半分以上の時間を費やされて報道されています。このありさまを見て少々うんざりしています。

ウクライナの人の「いのち」や、ガザ地区の人の「いのち」や、人質の「いのち」はどうなったのでしょうか。誰がこの人たちのために日夜一生懸命働いてくれているのでしょうか、と言いたくなります。お金の話はもういいです。「いのち」の話をしましょう。戦争で「いのち」がなくなるとい話をしましょう。疫病で「いのち」がなくなるとい話をしましょう。小さな弱い赤ちゃんが「いのち」をなくすことのない話をしましょう。

「いのち輝く未来社会のデザイン」は、2025年の万博のテーマとしてなかなか素敵なテーマだと実感しました。

テーマといえば2025年のWHOの世界健康デーのテーマは「健やかなはじまり、希望のある未来へ (Healthy beginnings, hopeful futures)」です。

赤ちゃんが、平和で、清潔な場所で、祝福されて生まれて、お母さんも元気で、その赤ちゃんがすすく大きくなって、学校で学んで、人の役に立つ仕事ができる、戦争で死なない、そんなイメージがうかびます。

中村安秀理事長は、小児科医で、母子手帳の世界的な推進者です。中村理事長の知見のテーマであると期待しています。

最後に産経新聞に紹介されていた母子手帳の話をご紹介します。

お母さんが「ひったくり」の被害にあって、バックもお財布もカードもみんなひったくられたそうです。そして一言、言いました。

「母子手帳だけは返して。」

2025年の後半が平和な世界でありますように祈ります。

2025年7月